

四万十市ふるさと応援団員からの便り

## 出身は中村です

安倍 夜郎

東京都杉並区  
昭和38年生まれ

断っておくが、ボクは「四万十市」というのに何の愛着も持っていない。むしろ勝手に本籍を変えられたことに未だ納得していない。だから、出身を尋ねられると、「高知県の中村です」と答えることにしている。なにしろボクは、中村幼稚園に年中組で入って以来、中村小学校、中村中学校、中村高校に通った生粋の中村人なのだから、今さら言われてもこまるのである。

という訳で、ボクは年に二、三度、四万十市ではなく中村に帰省する。毎年、盆暮れの帰省前になると東京の自宅に、いつ帰ってくるかと中村の友人達から電話が入る。帰ってからの飲み会の誘いで、帰省すると東京にいるときの何倍も忙しい日々が待っている。

漫画が売れない頃は、高知まで深夜バスで帰って来てたが、この頃は飛行機だ。汽車が後川の鉄橋を渡ると、ああ、帰って来たなと思う。言葉もすぐ幡多弁に戻る。

帰って来ていつも思うのは、なんちゃあないけんどやっぱり中村はええ町やということである。なんちゃあないというのは、当り前のようにそこにあるから特別思わないだけで、ホントは山があつて川があつて海があつて、キレイな空があつて旨いもんがある。それから、ずっと中村におつたらわからんろうけど、どしたち水がええ。沸かした風呂の水が違

う。とても柔らかくてやさしくて気持ちええ。飯を炊いてもうまいし、その上に青のりをかけたら、もう何も言うことはない。本当に四万十川のお蔭やと思う。

でも、あんまり何でもかんでも「四万十、四万十」いうがはようないと思う。かえって恥しい。県外用、観光用みたいな感じで妙にかん。しつこいようなけんど、「四万十市」いうがもそれと同じもんを感じる。

「四万十」というブランドを育てようと思うたら、実のある本当にええ商品を作らんといかん。とりあえず「四万十」と付けただけの何の工夫もない目先だけの物を作っても、一回は売れても二度と買ってくれん。地元の人認めるしつかりした物づくりをしたら、自信を持って「四万十のがはエエゼ」と余所の人も紹介できる。そうして、初めて「四万十市」を応援できるようになるとボクは思っている。

ひとつお知らせがあります。12月30日の午後から1月6日まで(元日を除く)、中村桜町「Coffee Rest 風雅」(341690)にて、ささやかな原画展を開きます。2日、15時〜16時サイン会も予定しています。入場無料です。お時間がありましたら覗いてみてください。

